
苫小牧市立病院経営強化プラン自己評価

令和 6 年 9 月

苫小牧市立病院

【目 次】

苦小牧市立病院経営強化プラン評価基準表	1
1 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標	2
(1) 医療機能に係るもの	2
(2) 医療の質に係るもの	4
(3) 連携の強化に係るもの	5
(4) その他	5
2 経営指標に係る数値目標	6
(1) 収支改善に係るもの	6
(2) 経費削減に係るもの	6
(3) 収入確保に係るもの	7
(4) 経営の安定性に係るもの	8
3 収支の状況	9

苫小牧市立病院経営強化プラン評価基準表

苫小牧市立病院経営強化プランに掲げた項目（41項目）について、令和5年度の目標値と実績値を比較、分析し、以下のとおりAからEまでの5段階で評価する。

評 価	評 価 基 準
A	経営指標の目標値を大幅に上回り、特に優れた成果が認められる。
B	経営指標の目標値を達成している。
C	経営指標の目標値をおおむね達成している。
D	経営指標の目標値を下回っており、改善の余地がある。
E	経営指標の目標値を大幅に下回っており、大幅な改善が必要。

1 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標

(1) 医療機能に係るもの

番号	項 目	5 年度 目標値	5 年度 実績値	比較	自己評価・分析		
					評価	コメント	
1	地域救急貢献率(%)	38.0	34.1	▲ 3.9	C	前年度よりも2.5%増加しましたが、目標値を下回りました。院内各部署や救急隊との連携を強化し、地域の救急需要に適切に対応していきます。 4 年度 31.6% 5 年度 34.1% 増減 2.5%	
【参 考】		地域とは当医療圏（東胆振医療圏）を指す(以下、同様)。地域で救急搬送された患者に対して、当院で引き受けた救急車来院患者数の割合を示す。					
【算出式】		地域救急貢献率(%) ＝ 救急車来院患者数 ÷ 二次医療圏内救急車搬送人数 × 100					
2	地域分べん貢献率(%)	68.0	71.6	3.6	B	二次医療圏の出生数は前年度よりも24件減少しましたが、当院の分べん取扱件数は14件増加し、目標値を上回りました。今後も、圏域に必要な周産期医療体制の維持に努めていきます。 (二次医療圏の出生数) 4 年度 5 年度 増減 1,024人 1,000人 ▲24人 (当院分べん件数) 【3頁の6番参照】 4 年度 5 年度 増減 684件 698件 14件	
【参 考】		地域での出生数に対して、当院で出生した割合を示す。					
【算出式】		地域分べん貢献率(%) ＝ 当院出生数 ÷ 二次医療圏出生数 × 100					
3	訪問診療・看護件数 (件)	150	86	▲ 64	D	コロナ禍では行動制限や患者家族の面会制限などの影響もあり、在宅療養を希望する方が多い傾向にありました。 5 年度は、新型コロナウイルス感染症の 5 類移行による制限緩和により、訪問診療・看護の需要は減少し、コロナ禍以前（元年度 69件）に戻りつつあるものと分析しています。 4 年度 5 年度 増減 150件 86件 ▲64件	
4	手術件数(件) (うち全身麻酔手術 (件)	2,400 (1,400)	2,639 (1,584)	239 (184)	B	整形外科常勤医確保による増に加えて、コロナ禍における入院制限や予定手術の延期などの影響も少なく、目標値を上回りました。 4 年度 5 年度 増減 2,237件 2,639件 402件 (1,336件) (1,584件) (248件)	

番号	項 目	5 年 度 目 標 値	5 年 度 実 績 値	比 較	自己評価・分析							
					評価	コメント						
5	救急患者数(人)	5, 500	5, 357	▲143	C	不応需の妥当性を検証し、運用改善に努めたことなどから、前年度よりも218人増加しましたが、目標値は下回りました。 <table><tr><td>4 年 度</td><td>5 年 度</td><td>増 減</td></tr><tr><td>5, 139人</td><td>5, 357人</td><td>218人</td></tr></table>	4 年 度	5 年 度	増 減	5, 139人	5, 357人	218人
4 年 度	5 年 度	増 減										
5, 139人	5, 357人	218人										
6	分べん取扱い件数(件)	700	698	▲2	C	前年度よりも14件増加しましたが、わずかに目標値を下回りました。今後も、地域で安心・安全な出産が可能な体制の維持に努めていきます。 <table><tr><td>4 年 度</td><td>5 年 度</td><td>増 減</td></tr><tr><td>684件</td><td>698件</td><td>14件</td></tr></table>	4 年 度	5 年 度	増 減	684件	698件	14件
4 年 度	5 年 度	増 減										
684件	698件	14件										
7	リハビリ件数(件)	36, 700	43, 626	6, 926	B	入院患者数の増加に伴いリハビリテーション医療の提供件数が増加し、目標値を上回りました。 <table><tr><td>4 年 度</td><td>5 年 度</td><td>増 減</td></tr><tr><td>36, 008件</td><td>43, 626件</td><td>7, 618件</td></tr></table>	4 年 度	5 年 度	増 減	36, 008件	43, 626件	7, 618件
4 年 度	5 年 度	増 減										
36, 008件	43, 626件	7, 618件										

(2) 医療の質に係るもの

番号	項 目	5 年度 目標値	5 年度 実績値	比較	自己評価・分析		
					評価	コメント	
8	入院患者満足度(%)	100.0	99.0	▲ 1.0	C	前年度よりも0.2%増加しましたが、目標値を下回りました。	
				4 年度 98.8%		5 年度 99.0%	増減 0.2%
【参 考】 アンケート調査による入院患者の満足度を示す。							
【算出式】 入院患者満足度(%) = 満足 of いく治療を受けたと回答した入院患者数 ÷ アンケートの有効回答者数 × 100							
9	外来患者満足度(%)	95.0	89.2	▲ 5.8	C	「やや不満」と回答した患者さんの割合が増加し、目標値を下回りました。	
				4 年度 92.6%		5 年度 89.2%	増減 ▲3.4%
【参 考】 アンケート調査による外来患者の満足度を示す。							
【算出式】 外来患者満足度(%) = 満足 of いく治療を受けたと回答した外来患者数 ÷ アンケートの有効回答者数 × 100							
10	在宅復帰率(%)	90.0	92.1	2.1	B	自宅復帰に向けた退院支援などにより、目標値を上回りました。	
				4 年度 91.8%		5 年度 92.1%	増減 0.3%
【参 考】 退院患者のうち、自宅、他院の回復期リハビリテーション病棟、介護老人保健施設などへの退院の割合を示す。							
【算出式】 在宅復帰率(%) = 退院先が自宅等の患者数 ÷ 生存退院患者数 × 100							
11	クリニカルパス使用率 【患者数】(%)	60.0	64.2	4.2	B	前年度よりも低下しましたが、目標値を上回りました。今後も、60%以上を維持できるよう、使用率向上に努めていきます。	
				4 年度 78.3%		5 年度 64.2%	増減 ▲14.1%
【参 考】 入院患者に対し、クリニカルパスを適用した割合を示す。							
【算出式】 クリニカルパス使用率【患者数】(%) = クリニカルパス新規適用患者数 ÷ 新入院患者数 × 100							
12	クリニカルパス使用率 【日数】(%)	30.0	43.9	13.9	A	11番と同様に、目標値を上回りました。今後も、30%以上を維持できるよう、使用率向上に努めていきます。	
				4 年度 50.7%		5 年度 43.9%	増減 ▲6.8%
【参 考】 入院患者の延べ日数に対し、クリニカルパスを適用した割合を示す。							
【算出式】 クリニカルパス使用率【日数】(%) = クリニカルパス適用日数合計 ÷ 入院延べ日数 × 100							

(3) 連携の強化に係るもの

番号	項 目	5 年度 目標値	5 年度 実績値	比較	自己評価・分析		
					評価	コメント	
13	初診紹介患者数(人)	5,470	6,447	977	B	新型コロナウイルス感染症の5類移行後の取組として、紹介新患枠の設置や紹介患者受診予約申込書の変更など、地域の医療機関からのご紹介に柔軟に対応できるよう体制を整えたことにより、初診紹介患者数の増加につながったものと考えています。 4 年度 5,625人	
						5 年度 6,447人	増減 822人
14	逆紹介(診療情報提供)件数(件)	5,660	6,641	981	B	逆紹介件数は前年度とほぼ同水準で推移しており、診療内容に応じた地域の医療機関との機能分担と連携が図られているものと考えています。 4 年度 6,455人	
						5 年度 6,641人	増減 186人
15	紹介率(%)	55.0	53.5	▲1.5	C	初診紹介患者数の増加に伴い前年度よりも5.8%増加しましたが、目標値を下回りました。引き続き、初診紹介患者の増加に向けて取り組んでいきます。 4 年度 47.7%	
						5 年度 53.5%	増減 5.8%
	【参 考】 初診の患者数に対して、紹介受診、救急受診する患者の割合を示す。						
	【算出式】 紹介率(%) = (初診紹介患者数+初診救急患者数) ÷ 初診患者数 × 100						
16	逆紹介率(%)	40.0	43.2	3.2	B	目標値は上回りましたが、初診患者数が前年度に比べて増加した結果、逆紹介率は減少しています。 4 年度 44.8%	
						5 年度 43.2%	増減 ▲1.6%
	【参 考】 初診の患者数に対して、他の医療機関へ紹介する患者の割合を示す。						
	【算出式】 逆紹介率(%) = 逆紹介患者数 ÷ 初診患者数 × 100						

(4) その他

番号	項 目	5 年度 目標値	5 年度 実績値	比較	自己評価・分析	
					評価	コメント
17	後発医薬品指数(%)	90.0	93.8	3.8	B	後発医薬品の供給停止や出荷調整の影響が続いている状況ですが、代替後発医薬品の確保に努めた結果、目標値を上回りました。 【参 考】 後発医薬品(ジェネリック医薬品)の使用割合を示す。 【算出式】 後発医薬品指数(%) = 後発医薬品の数量 ÷ { (後発医薬品のある先発医薬品の数量) + (後発医薬品の数量) } × 100
18	基幹型初期臨床研修医の受入人数(人)	14	14	0	B	当院の特徴を発信するとともに、積極的な実習受入れやきめ細やかな見学生対応など人材確保対策を推進したことから、目標値を達成することができました。

2 経営指標に係る数値目標

(1) 収支改善に係るもの

番号	項 目	5 年度 目標値	5 年度 実績値	比較	自己評価・分析	
					評価	コメント
19	経常収支比率(%)	95.5	95.9	0.4	B	経常収益・経常費用ともに減少しましたが、経常費用の減少幅の方が大きいため、目標値をわずかに上回りました。
	【参 考】	経常収益＝医業収益＋医業外収益 経常費用＝医業費用＋医業外費用 経常収支＝経常収益－経常費用				
	【算出式】	経常収支比率(%)＝(経常収益÷経常費用)×100				
20	修正医業収支比率(%)	79.2	79.1	▲0.1	C	医業収益・医業費用ともに減少し、目標値をわずかに下回りました。
	【算出式】	修正医業収支比率(%)＝{(医業収益－他会計負担金)÷医業費用}×100				

(2) 経費削減に係るもの

番号	項 目	5 年度 目標値	5 年度 実績値	比較	自己評価・分析	
					評価	コメント
21	給与費対 医業収益比率(%)	56.4	57.2	0.8	C	給与費の大きな増減はありませんが、医業収益が目標値よりも減少したことから【9頁の35番参照】、結果として当該比率の目標値を達成できませんでした。
	【算出式】	給与費対医業収益比率(%)＝(給与費÷医業収益)×100				
22	材料費対医業収益比率 (%) (うち薬品費比率 (%))	24.1 (13.1)	23.3 (12.2)	▲0.8 (▲0.9)	B	医業収益が目標値よりも減少したことから【9頁の35番参照】、診療と連動する診療材料や薬品の使用量が見込より減少し【9頁の36番参照】、結果として当該比率の目標値を達成しました。
	【算出式】	材料費対医業収益比率(%)＝(材料費÷医業収益)×100				
		薬品費対医業収益比率(%)＝(薬品費÷医業収益)×100				

(3) 収入確保に係るもの

番号	項 目	5 年度 目標値	5 年度 実績値	比較	自己評価・分析	
					評価	コメント
23	年間延入院患者数(人)	85,100	85,255	155	B	前年度よりも11,752人増加し、目標値は上回りました。一方で、コロナ禍の入院制限などの影響が少なかった元年度と比較すると約15,000人減少していることから、引き続き入院患者数の回復に取り組んでいきます。 4 年度 73,503人 5 年度 85,255人 増減 11,752人
24	病床利用率(%)	69.4	70.0	0.6	B	23番と関連して、目標値を上回りました。病床管理体制を強化し、引き続き利用率の回復に取り組んでいきます。 4 年度 52.7% (66.5%) 5 年度 61.0% (70.0%) 増減 8.3% (3.5%) ※ () はコロナによる休止病床を除いた率
【算出式】 病床利用率(%) = (年間延入院患者数×100) ÷ (稼働病床数×実日数)						
25	入院患者1人1日当たり 診療収入(円)	70,517	68,686	▲1,831	C	特例的に診療報酬が高く設定されていたコロナ患者の減少等により、目標値を下回りました。
【算出式】 入院患者1人1日当たり診療収入(円) = 入院収益 ÷ 年間延入院患者数						
26	平均在院日数(日)	9.5	9.5	0.0	B	前年度よりも0.3日延長し、目標を達成することができました。病床管理体制の強化やクリニカルパスの活用により、引き続き在院日数適正化に取り組んでいきます。 4 年度 9.2日 5 年度 9.5日 増減 0.3日
【算出式】 平均在院日数(日) = 年間延入院患者数 ÷ { (入院件数 + 退院件数) ÷ 2 }						
27	DPC係数	0.4937	0.4937	0.0	B	DPC係数に関係する施設基準の維持に努めた結果、目標値どおりとなりました。
【算出式】 DPC係数 = 機能評価係数Ⅰ + 機能評価係数Ⅱ (毎年4月1日の係数)						
28	年間延外来患者数(人)	178,500	176,881	▲1,619	C	前年度よりも5,417人増加しましたが、目標値を下回りました。引き続き、外来患者数の回復に取り組んでいきます。 4 年度 171,464人 5 年度 176,881人 増減 5,417人
29	外来患者1人1日当たり 診療収入 (円)	15,770	15,331	▲439	C	高額な薬剤等の使用が減少し、目標値を下回りました。
【算出式】 外来患者1人1日当たり診療収入(円) = 外来収益 ÷ 年間延外来患者数						

(4) 経営の安定性に係るもの

番号	項 目	5年度 目標値	5年度 実績値	比較	自己評価・分析	
					評価	コメント
30	医師数(人) (臨床研修医等も含む)	79	79	0	B	大学等関係機関との連携や臨床研修の推進などにより、目標の医師数を確保することができました。
31	看護師数(人)	417	412	▲5	C	学資金貸与制度の活用や職員の随時募集を行いました。退職者も一定程度いることから、目標値を下回りました。
32	企業債残高 (百万円)	7,762	7,762	0	B	医療機器の計画的な更新により、目標額どおりの残高となりました。 今後も効果的な設備投資により費用の平準化を図りつつ、企業債残高の縮減に努めていきます。
【参 考】 企業債とは地方公営企業が施設の建設・改良等に要する資金に充てるために国などから借りるお金のこと						
33	一時借入金残高 (百万円)	0	0	0	B	資金不足が生じた場合は、通常、運転資金を金融機関等からの借入金で措置します。 前年度に引き続き、資金不足が発生していないことから、一時借入金は不要となっています。
34	累積資金収支 (百万円)	1,227	1,231	4	B	5年度は純損失を計上し、単年度資金収支はマイナスとなったものの、累積資金収支は、ほぼ目標額どおりの資金剰余額を確保することができました。【9頁の41番参照】
【算出式】 累積資金収支＝流動資産－流動負債						

3 収支の状況

(単位：百万円、税抜き)

番号	収 益 的 収 支	5 年 度 目 標 値	5 年 度 実 績 値	比 較	自己評価・分析	
					評価	コメント
35	病 院 事 業 収 益	11,680	11,407	▲273	D	医業収益は、手術件数が増加【2頁の4番参照】したものの、患者1人1日当たり診療収入の減【7頁の25番、7頁29番参照】などにより、入院収益、外来収益ともに目標値を下回りました。
	医 業 収 益	9,668	9,406	▲262		
	入 院 収 益	6,001	5,856	▲145		
	外 来 収 益	2,815	2,712	▲103		
	そ の 他	852	838	▲14		
	医 業 外 収 益	1,981	1,970	▲11		
	特 別 利 益	31	31	0		
36	病 院 事 業 費 用	12,330	12,002	▲328	A	材料費は、診療材料や薬品などの使用量が見込を下回ったことにより、それ以外の費用は、効率的に執行したことなどにより、全て目標値よりも削減することができました。
	医 業 費 用	11,604	11,293	▲311		
	職 員 給 与 費	5,450	5,383	▲67		
	材 料 費	2,326	2,192	▲134		
	経 費	2,801	2,698	▲103		
	そ の 他	1,027	1,020	▲7		
	医 業 外 費 用 外	590	573	▲17		
37	特 別 損 失	136	136	0	B	35番、36番に連動して、目標値を上回ることができました。
	経 常 収 支	▲ 545	▲ 490	55		
	当 年 度 純 損 益	▲ 650	▲ 595	55		

(単位：百万円、税込み)

番号	資 本 的 収 支	5 年 度 目 標 値	5 年 度 実 績 値	比 較	自己評価・分析	
					評価	コメント
38	資 本 的 収 入	903	868	▲35	B	企業債は、企業債対象の医療機器の整備費が減少したことなどにより、目標値よりも減少しました。
	企 業 債	356	337	▲19		
	他 会 計 負 担 金 等	514	514	0		
	そ の 他	33	17	▲16		
39	資 本 的 支 出	1,312	1,296	▲16	B	建設改良費は、競争性を確保した適切な契約手続等により、目標値よりも削減することができました。
	建 設 改 良 費	417	402	▲15		
	企 業 債 償 還 金	866	866	0		
	そ の 他	29	28	▲1		
40	資 本 的 収 支	▲409	▲428	▲19	B	資本的収入の減により、収支マイナスが目標値を下回りました。

41	流 動 資 産	3,375	3,272	▲ 103	B	累積資金収支は、35番から40番に連動して、目標値を上回ることができました。 なお、資金不足のマイナス表記は、剰余を意味しており、参考数値として掲載しています。
	流 動 負 債	2,148	2,041	▲ 107		
	う ち 企 業 債	864	864	0		
	単 年 度 資 金 収 支	▲ 417	▲ 412	5		
	累 積 資 金 収 支	1,227	1,231	4		
	資 金 不 足 額	▲2,091	▲2,095	▲4		
	資 金 不 足 比 率	—	—	—		

※収支状況の数値については、公営企業の経営に当たっての留意事項について（総務省通知）の収支計画記載要領に基づき、収益的収支は税抜き、資本的収支は税込みで作成している。